評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	<ul style="list-style-type: none">・『認定こども園 全体計画』に基づき、本園の子どもの実態を捉えて指導計画をたて実践した。こども理解を深め、保育内容の発信や振り返りの考察に、保育ドキュメンテーションを作成し活用した。保育アドバイザーに作成の視点や配慮のポイントなどのアドバイスを受けた。・今年度の研究テーマを「遊びや活動を通して、人と関わる事の心地よさを感じられる子どもに」～環境ガイドラインを活用し、日々の保育を振り返る～とし、同じ講師に2回来ていただき、年度初めに受けたアドバイスをふまえ、実践した変化や課題を年度後半に考察する機会をもてたことは有意義だった。
健康支援	<ul style="list-style-type: none">・保健年間計画に基づき、毎月の身体測定時などに、保健師が保健指導を行い、子ども達が体の働きについて知り興味関心をもち、自分や友達の体を大事に思う意識をもてるように努めた。年齢に応じた内容とし幼児はプライベートゾーンの話も取り入れた。・子ども・保護者・職員にむけて、必要な情報提供を「ほけんだより」「玄関掲示」や「配信アプリ」などで発信した。
安全指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none">・毎月、施設全体の安全点検を行い、危険箇所や不具合があった場合は、修理修繕を行い、必要な時は修理を依頼するなど迅速に対応し、事故防止に努めた。・毎月、「火災」「地震」「不審者」「大雨」などの避難訓練を様々なシチュエーションを想定して実施した。担当を中心に事前事後で検討し、よりスムーズに避難できるよう改善案を職員に周知するよう努めた。・日々の安全確認は職員が行うが、子ども達自身でも安全な行動を意識できるよう、遊具の使い方や園庭での遊び方など伝えていっている。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none">・各クラス、菜園活動を行い、育てた野菜を収穫し、クッキングして食べる喜びを経験することで、食に関心をもつきっかけとなった。また、年齢に応じ、給食食材の皮むきやほぐしをしたり、それを給食時に5歳児が放送で伝えたりする取り組みを継続している。
子育て支援（在園児および地域）	<ul style="list-style-type: none">・保護者参加の参観や懇談、おたより、掲示などで園の教育保育を発信した。支援を要する家庭には、必要に応じて他機関と連携した。・地域支援センターの事業では、園児と地域の親子の交流機会をもち、お互いにとっていい交流の場、刺激となった。また、参加した保護者同士が顔見知りとなり、つながりがうまれる姿もあった。
インクルーシブ教育保育	<ul style="list-style-type: none">・個々の特性をふまえ、集団の中での育ち合いを大切にして、教育保育を進めている。課題や支援の仕方については、職員皆が共通理解をもてるようミーティングや会議で共有した。・就学前の保護者には特に丁寧に話す場をもち、進学への支援や児童発達支援センターとつなぐなどの配慮を心掛けた。

<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公立こども園自己評価表を用いた自己評価を年2回（前半・後半）実施し、項目のチェックとともに気付いた事や課題を各自記述した。 ・園内公開保育では、「教育保育環境ガイドライン」を活用しながら、職員間で保育を振り返り意見交換した。 ・研修で学んだことや、係ミーティングの内容は、会議や資料で報告し、情報共有に努めている。
<p>幼保こ小中の連携・接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学予定の各小学校と連携を図り、子どもの様子を見てもらいながら話をするなど、丁寧に引継ぎを行った。 ・近隣の公民3園の5歳児が交流をもち、入学前に顔見知りになる機会を作っている。担当者が変わっても、継続してねらいや取り組みが引継がれるよう、毎年1回目の打ち合わせ日は園長が調整することとした。
<p>評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会を年3回実施。園内公開保育を見てもらう機会も作り、園の実践をより具体的に知ってもらえる機会となった。それぞれの立場から、園の教育保育に感じた率直なご意見をたくさんいただき、励みになり気付きのきっかけを与えてもらった。 ・保護者アンケートから見えてきた、園の長所や課題を報告し、それについても意見交流できた。
<p>その他</p>	

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>教育保育内容の充実 教育保育内容の発信</p>	<p>各クラス保育や園全体の取り組みを、ドキュメンテーションを作成し、保護者への発信や職員間の振り返りに活用していくことを継続する。その際に大事にしたい視点や、見る人に伝わりやすく分かりやすい工夫をし、今後は保育の中で子どもたちの対話や学びのツールとして次の遊びにつながる活用の仕方も考えていく。</p>
<p>職員の資質の向上</p>	<p>質の高い保育には、職員一人一人の資質向上、同じ目標に向かってのチームワークが欠かせない。積極的に研修に参加し、それを職員間で共有することで、子ども理解の視点を学び、広い視野と柔軟な姿勢でよい実践から学ぶことを継続していく。会議やミーティング、普段の対話の中で職員同士の信頼関係を築き、肯定的に意見し育ち合える職員集団をめざす。</p>

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 北緑丘こども園

園 長 作田 美樹